

小野市議会だより

2021.8
No.198

議員がそれぞれの思いを語る



1期4年の
折り返しを迎えて

議員がそれぞれの思いを語る。



① 2年間を振り返って

② これからの2年間に向けて

③ どんな小野市にしたいか

① 1期目の方から質問される2期目の立場となり、また、ICTを活用したオンライン研修等の充実で、自身の学びが深まる2年間でした。コロナ禍では、学校の様子を知る機会が減ってしまったことがとても心残りです。

② 市民の皆さまのお声をお聞きすることが議員活動の基本ですので、新しい生活様式に対応した議員活動を引き続き模索します。議会も上手くデジタル化を活用し、議会のDX[※]を図ることができるよう議論を重ねたいです。

※注=デジタルトランスフォーメーションのこと。
平田議員一般質問のページ参照。

③ 家族の形態や働き方、人生観など、ライフスタイルから価値観まで多様化しています。社会的少数者にも耳を傾け、互いを尊重し、
一人一人の能力を発揮できる

持続可能な小野市でこれからも
あって欲しいと考えています。

紡ぐ未来 2期目
平田 真実



① 1年目は、議員としての基礎知識や議会のシステムなどを覚えるのに精いっぱいだった。2年目は会派の中で大いに議論できて充実していた。

② 市民からの負託を受けた議員として、地域を問わず積極的に地元の皆さまと意見を交わしながら市政に反映させていきたい。また、全議員での意見交換もタイムリーにできるような環境づくりにも取り組んでいきたい。

③ 災害に強いまち、そして若い世代が住み続けられるよう雇用を創出する次世代産業を誘致し、三世代が余暇を楽しめる公共施設の充実を図り、
魅力ある輝くまちに!!

紡ぐ未来 1期目
喜始 真吾



① 私が市議会議員になってから2年。初期の頃は、議員はどうあるべきか自問自答を繰り返していました。今は、市民の皆さまと市政への架け橋として、確かな歩みで前進している「議員・松永美由紀」を実感しています。

② コロナ禍で議員活動が制約される部分もありますがより住みやすい小野市にするため市民の皆さまのご意見に耳を傾け、小野市の現状から発展への足掛かりを見つけることに注力していきたいと考えています。

③ 小野市は、**潜在能力を秘めた街**だと信じています。人口減少の中においても、住んで便利な街、楽しい街、例えば商業地域の拡大など、衣・食・住の面で不便を感じない街にしたいと思っています。

市民クラブ 1期目
松永 美由紀



① 社会情勢や市民の皆様から頂いた意見や問題に対して7回17項目一般質問をした。一年目は無我夢中。2年目はコロナ禍、たくさんの市民の方からの相談や意見交換ができ、とても勉強になった。3月防災士の資格を取得。

② 女性の視点からの災害・防災対策、温暖化対策、少子化対策等の課題解決に向けて、先駆的な取組をする自治体の例を学び、真摯に取り組んでいく。これからも、市民の皆さまの多様な声に耳を傾け、市政に反映させたい。

③ 女性や若者、高齢者、すべての人が安心して希望を持って生きられる、**誰ひとり取り残さない小野市**に。多様な価値観、生き方に寄り添い誰もが住んで良かったと実感できる小野市にしたい。

公明党 1期目
村本 洋子



① 3期目となる私は、自身より期の浅い議員、若い議員と議論する機会が増えた。コロナ禍という経験を含め、自身の既存の価値を見直す機会に恵まれたと思う。

② コロナ後の市民生活がコロナ禍の経験によって進歩することができるように考えを巡らせ、活動していきたい。

③ 自動運転化などによる移動手段の変化、ICTの推進による働き方の変革は今後ますます推し進められていく。その中で、私たちが持っている地域の宝

1) 大都市圏から程よい距離で鉄道・道路網が整う都市基盤

2) 気候に恵まれた自然豊かな環境

3) 地域のコミュニティを支える人とその心

を大切に守り育てていくまちに。

紡ぐ未来 3期目
山本 悟朗



① コロナ禍での様々な取り組みは、学ぶべきことが多くありました。市民の皆さまに対し適切な役割を果たせていたのか、反省点もたくさん見えてまいります。 「実際に行動する」という自身の指針は忘れずに活動できた2年間でした。

② 今を「いつでも起こり得る」状況と捉え、当たり前とされていた働き方やライフスタイルを見直すことで、議員としての役割や取り組むべきことを見出し、「原点回帰」し、自身を鍛える2年間にしたいと思っています。

③ 生まれ育った方も転入された方も、**「この市で生きてきて良かった」と心から**思ってもらえる、どの世代の誰もが住みたくなるような市を、市民の皆さまとともに目指していきたい!!

紡ぐ未来 2期目
久後 淳司



① 1年目は、見聞きすることが初めてのことでありあつという間に過ぎ去った気がします。2年目に入って「紡ぐ未来」に所属し、先輩や仲間に教えられ、支えられながら充実した有意義な1年を過ごすことができました。

② 今年度の議会のキーワードである「開かれた議会」「討論する議会」「行動する議会」「信頼される議会」に向けて精いっぱい努力し、最終の4年目には市民の皆さまに認めていただくことを目標に頑張ります。

③ 市民の誰もが「みんなで一緒に助け合える」「生活しやすい」「日々活き活きと過ごすことができる」ことを共通実感でき、自慢できる明るい雰囲気のみち、**住みたいまち小野**にしたい!!

紡ぐ未来 1期目
河島 泉



① 最初の1年は、他議会からの視察研修に入らせていただき市政について学んだ。2年目以降は会派での議論に刺激を受けつつ、会派勉強会やオンライン研修、現地研修などを通して学びを深めている。

② コロナの影響を受け、公約に掲げた市民との意見交換会が開催できないでいる。今後は状況をみながら少人数からでもスタートさせる。意見交換を通じて上がってきた内容をさらに研究し、議会での質問につなげ、市へ提案する。

③ **人を育むまちに!!** 子どもたちが、勉強やスポーツ、文化活動などあらゆる分野において多くの選択肢の中から自分の意志で自由に選択できる世の中にしたい。その選択を力強くサポートできるように周囲の環境を整えたい。

紡ぐ未来 1期目
藤原 貴希



①新庁舎が完成し、新しい小野市の構築に向けてスタートしています。
新型コロナウイルスの感染拡大での大混乱に対し、いち早く市民生活の安定に向けての取り組みが実施されたが、更なる取り組みへの始まりとなっている。

②新庁舎周辺の開発。
これからの小野市のあるべき方向性を、既成概念に囚われず根本的に見直し、シビックゾーンを中心とした新しい小野市らしさへのまちづくりが必要。

③超高齢社会を迎え（小野市でも30%台へ突入）大人も子どもも、そして高齢者もすべての市民が
安全に安心して暮らせるまち。

市民クラブ 4期目
岡嶋 正昭



①思い出多い旧庁舎を後に新庁舎に移転して一年、今期の折り返しを迎えています。昨年度は議長職を拝命しその重責に追われ、コロナ禍の中議員活動の制約と共に、市民の方々にお会いする機会が少なかった一年でした。

②未だに終息が見えない中ではありますが、市民の皆様の日常生活の確保、地域経済の立て直しに力を注いでいかなくてはならないと考えます。自分のでき得ることを皆さまの声をお聞きしながら真摯に取り組んでいきます。

③新庁舎の6階から市内を見渡しますと、周囲を山に囲まれ大変穏やかな景色がみえます。今後周辺がどのように変わっていくか楽しみです。住んでよかった小野市に、
終の棲家を小野市にと
選んで頂けるように。

市民クラブ 3期目
小林 千津子



①「**初心から忍耐へ**」初志貫徹の精神で迎えた3期目の1年目（令和元年度）、コロナ情報を収集し感染症の拡大防止に向けての取組み、様々な支援を試みた2年目（令和2年度）、振り返ると「コロナと共に…。」

②「**覚悟と挑戦へ**」産官民一体となつてのワクチン接種で集団免疫を確保し、その繋がりや経験を糧としてニューノーマル（新たな常識）で協働のまちづくり、加えて、持続可能な住民サービスの実現に向けて挑戦！

③「**質実剛健な小野市へ!**」生きているという事は誰かに借りを作ること、生きていくという事は誰かに借りを返してゆくこと、そんな気持ちを抱く市民が誇りをもち、人と自然、人とまちが共存、愛着を感じる小野市に！

市民クラブ 3期目
前田 光教



①所属会派が変わり見える景色も感じる空気も変化した2年間でした。唯々諸先輩方に追いつけるように勉強し続けた過去2期に比べて議会という組織を念頭に置くようになってきたと自負しています。

②過去二年間はコロナ禍の影響を受け、外に出て動くということができず、自己の内面に向かって自問自答の日々でした。この間に頭の中で夢想していたことを少しでも実現できるように、精進していきたいと思っています。

③「生涯の住処」に選ばれるところにしていきたいと思えます。どのような事情があろうとも、小野市で生まれ、小野市で生き、小野市で終焉を迎えられる。
誇り高きまちへ!

市民クラブ 3期目
河島 三奈



①当初の1年間は、議長として全国各地より多くの視察に来ていただいた皆さまに、その都度小野市の特徴的な取り組みを紹介させて頂くことができ、小野市の魅力を全国に発信することができました。

2年目は、コロナ禍により市民の皆さまとふれあうことができず、直接声を聞かせて頂く機会が少なく残念な1年となりました。

②コロナ禍の収束を期待するとともに、より多くの皆さまとの意見交換の機会を増やせるよう努力したいと思えます。

③常に「**他市より一歩進んでいる。**」と言われるような小野市。

公明党 6期目
川名 善三



①日々、市民のご意見に触れてまいりました。農業の後継者不安、農地の管理。子育て家族の不安（こども園での暮らし、通学の安全確保）。市街地の固定資産税の負担など。

②人口を増やすための住宅規制緩和、コロナ禍における飲食店への支援（人生の楽しみの一つは「飲食」です!）、子育て家族が安心できる教育環境整備に力を注ぎます!

③将来の小野市を願い、こんな小野市に!!

- 1) **教育の充実した小野市**
- 2) **生活弱者にやさしい小野市**
- 3) **市民がくつろげる自然豊かな小野市**
- 4) **児童生徒の通学の安全が確保される小野市**

無会派 3期目
河島 信行



①私は選挙で「市民にやさしい市政」を掲げ、子どもの国保税均等割免除や保育料副食費免除などを要請してきました。昨年からのコロナ禍では、市民生活が危機に陥る中、生活困窮者の救済を第一に考えてきました。

②コロナ禍はまだ続きます。市民の苦しみに寄り添い、少しでも救済できる市政を目指します。また、コロナが示した行政の弱点や課題を洗い出し、本当に安心して暮らせる小野市になるよう頑張ります。

①弱者も**安心して暮らせる温かい小野市**にし、自然や農村を大切に心休まる風景を残したい。また、小野市はスポーツ分野では大活躍しているので、文化・芸術の面でも花開く小野市にしたい!!

日本共産党 3期目
藤原 章



①★70点 私のモットーである「現場主義」がコロナ禍の影響もあり難しい部分もあった。机上の仕事が中心となり、リモート会議など新しいことも行いながら課題を掘り下げて取り組むこともできた。3月防災士の資格を取得。

②☆市民の皆さまに寄り添える議員として初心を忘れず仕事をする。
☆市民の皆さまに議会を身近に感じていただけるよう努力する。
☆議員の仕事の「見える化」に向けて発信する。

③○**小さな声も大きな声も平等な小野市**
○**市民の皆さまが誇れる小野市**

市民クラブ 3期目
高坂 純子



提出議案と審議結果



★全会一致で可決・同意した議案

区分	議案番号	議案名
補正予算	第30号	令和3年度小野市一般会計補正予算（第2号）
	第34号	令和3年度小野市一般会計補正予算（第3号）
条例	第31号	小野市福祉医療費助成に関する条例の一部を改正する条例の制定について
	第32号	小野市介護保険条例の一部を改正する条例の制定について
人事	第33号	小野市公平委員会委員の選任について 粟生町 仁科 初美氏
その他	第35号	市立小野南中学校長寿命化改良工事（体育館）請負契約について
	第36号	市庁舎外解体工事請負契約の変更について
	第37号	小野市一般廃棄物最終処分場第2期埋立地改修工事請負契約の変更について

★議員提出議案

議員提出	議案番号	議案名
	第3号	小野市議会議員の議員報酬等の特例に関する条例の一部を改正する条例の制定について
	第4号	小野市議会会議規則の一部を改正する規則の制定について

★議会用語解説★

- 表決とは**
本会議や委員会が議題となっている案件について、議員個人が賛成・反対の意思を表示すること。本会議では、通常、挙手で表示するが、場合によっては起立で表示することもある。
- 採決とは**
議長が本会議で議題となっている案件について、議員に賛成・反対を問い、その意思表示を集計すること。表決とは裏腹の言葉で、表決は議員側からみた表現であり、採決とは議長側からみた表現。
- 議決とは**
本会議で議題となっている案件について、表決の結果による議会の意思決定のこと。

審議議案の中から PICK UP!!



艶やかな小野産イチゴ

一般会計補正予算第2号（議案第30号） おいしいよ、小野産イチゴ

国の強い農業・担い手づくり総合支援交付金を活用してイチゴ栽培用ハウスの導入を計画している認定農業者（法人）を支援するもの。

魅力一杯！小野市のふるさと納税
市内の特産品・グルメなど新たな観光資源の開発をサポートし、それらを遠方の方の目にも留まるように効果的な情報発信を行うもの。関係人口の増加及びふるさと納税額の増加が期待されます。

一般会計補正予算第3号（議案第34号） ワクチン接種体制が更に充実

5月1日からいち早くワクチン接種を開始するなど迅速な対応並びに市民の方の理解により、小野市のワクチン接種率は県内でも高い状況です。ワクチン接種対象者が高齢者から全世代に拡大されるなか、安心して接種ができるよう柔軟かつきめ細やかに対応するもの。具体的には、集団接種会場での夜間接種、1日当たりの接種可能人数の増員などを行うもの。

新型コロナウイルス感染症生活困窮者自立支援金

新型コロナウイルス感染症の影響によって生活困窮に陥った方のうち、就労による自立に向けて取り組まれている方を支援するもの。
・緊急小口資金等の特例貸付が利用できない方等
・支給額（月額）単身世帯6万円、2人世帯8万円、3人以上世帯10万円
・支給期間 3か月間
・申請期限 8月31日（火）

（議案第35号） 小野南中学校体育館着工

校舎改良工事に続き体育館の改良工事に着手するもの。一部校舎の工事と同時進行となることから、生徒の安全面等に配慮して契約の相手方は校舎と同じ。工期は令和4年5月31日。契約金額は3億6千850万円、相手方は（株）明和工務店（神戸市中央区）



校舎から続く体育館 完成イメージ図（右）

第430回
定例会

会議期間31日間

（5月31日～6月30日）

市長提出議案…議案8件（補正予算2件・条例改正2件・その他4件）
議員提出議案…議案2件（条例改正1件・規則改正1件）
計10件

6月定例会
議案審議

一般質問

一般質問

一般質問
議会と市民懇話会

議員研修報告

ここが聞きたい 一般質問!!

市民のみなさまの生活に
関わることについて、
8人の議員が
一般質問を行いました。

(一般質問は発言した議員が編集しました)



●一般質問とは……

市政全般にわたり、執行機関（市長）に対し事務の執行状況や将来における政策方針等について議員が質問し、市長や部長等が答弁します。
また、小野市では、市長から提出された議案についても一般質問することができます。

●質問テーマは？

1. 質問する内容は、議案とは関係なく議員個人が自由に決めています。
2. 議員個人が自分なりの問題意識を市政に問い、市の見解を求めます。

●質問の制限時間は？

1人あたりの制限時間は40分です。(答弁は含みません)



《一般質問をスマホ・タブレットで視聴できます!》

各議員の顔写真の下のQRコードをスマートフォンなどで読み取ると、その議員の一般質問などの動画をご覧いただけます。



村本洋子議員（公明党）



がん患者アピランスサポート(※)を

実態とニーズの把握に努め、取り組むことについて検討

「生理の貧困」問題について

「生理の貧困」問題について

質問 コロナ禍で顕在化した「生理の貧困」、問題解決に向けた取組が必要と考えるが、生理用品を小・中学校や公共施設等で無償提供するなど交付金の活用について

答弁 地域女性活躍推進交付金は、生理用品の提供が事業の大部分を占める事業目的には適していないとされており、既存の事業に充てることできない。(市当局)

質問 防災備蓄品に生理用品を追加することについて

答弁 まずは、自助による備蓄を基本と考える。公助による備蓄は真に必要な物資、資器材等を備蓄することが重要。(市当局)

養育費の不払い問題について

質問 離婚によって、ひとり親世帯になった家庭の貧困率は高く、養育費の不払い問題も重要な要因と指摘されている。子どもの心理的・経済



間に挟まれた子ども

※がん患者・脱毛症等、科学的治療や疾病等ともなう脱毛その他外見変化に悩む人々の苦痛を軽減するための支援。

答弁 令和2年度における離婚届の届出数は133件。窓口でパンフレット「子どもの養育に関する合意形成の手引きとQ&A」、「離婚時の年金分割制度のお知らせ」を手渡している。不払い問題は、国レベルの課題と認識。国の動向に留意し、ひとり親世帯のニーズや実態の把握に努め、今後の対応について検討する。(市当局)

藤原貴希議員（紡ぐ未来）



消防団の役割の明確化・共有を

より実践的で高度な訓練研修を計画していく

質問 大規模災害を想定し、消防本部と消防団の連携の仕方、消防団の役割分担を明確にし共有するための訓練や研修が必要ではないか。

答弁 現在、分団ごとに地域特性に沿った訓練を行っている。また大規模災害に備えた訓練として遠距離中継訓練、地域教育防災訓練等を行い、地域防災力を高めている。今後はより実践的で高度化した訓練を通じて団員の能力の向上に努める。(市当局)



大規模災害を想定した訓練を

質問 生徒数の減少により、「合同部活動」を検討する必要が出てきた

市内中学校部活動の今後について

答弁 来年度、部員不足により公式戦に出場できない部活動があることは把握している。当該校を中心に慎重に議論され、教育委員会は必要な支援を行っている。今後は長期的な視野に立った「小野市流」の部活動の再構築に取り組んでいく。(市当局)

質問 新型コロナウイルスワクチン誤接種の経緯と公表について

答弁 誤接種のあった施設ではルールに則った方法をとらずミスが生じた。国県へはルールに基づき適切に報告した。施設の管理者の責任も問われる内容であり、医師による謝罪と市への報告が迅速に行われ、健康被害も確認されなかったため公表しなかった。今後はミスのない接種体制をさらに強化していく。(市当局・市長)

岡嶋正昭議員（市民クラブ）



市街地周辺のまちづくり

都市計画マスタープランの方針により整備

市道の舗装について

質問 東環状線・電鉄北線・市道212号線農免道路の現状復帰舗装計画について

答弁 舗装路面の長寿命化に向けての策定を市内51路線について検討に入る。国庫補助金を活用し、幹線道路の舗装長寿命化計画の策定を予定している。詳細な現地調査を進め、事業費の算出や年次計画をたてて進めていく。(市当局)

市街地及びその周辺地域のまちづくりについて

質問 特別指定区域制度の活用状況及び成果について

答弁 小野市では、市街化調整区域で建築規制を緩和する「特別指定区域制度」を平成17年度より取り組み、住宅が490件、事業所が39件の実績。(市当局)

質問 (株)アマダ西側の葉多町・王子町区域内の市街化調整区域の開発へ



葉多町・王子町の市街化調整区域

答弁 当区域は市街化調整区域で農振区域でもある。しかし、この区域は学校・日ごろのショッピングに非常に便利な所である。また、洪水の心配もほとんどなく小野市にとって貴重な地域である。この特別指定区域制度の活用を改めて検討していきたい。
当制度の見直しは令和3年度で行われ、次が5年後の令和8年度です。総合的に研究し、地縁者住宅区域が良いのか住宅促進区域が良いのか、あらゆる面から研究をしていきたい。(市当局)

平田 真実 議員 (紡ぐ未来)



自治体DXの推進について

答弁 デジタル社会の構築を目指し検討を進める

質問 生活様式が一変した昨今、自治体のデジタル化の遅れが指摘されている。社会や暮らしがより便利になるよう、デジタル技術を浸透させ、制度や組織のあり方を変革していくこと、いわゆる、DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進が必要である。小野市の目指すべきデジタル社会のビジョンは。



行政サービスの更なる向上へ

不妊に悩む方への支援について

答弁 デジタル化に対応できる組織や人材の確保、育成は大切だが、その前に、今ある業務の棚卸を徹底して行い、それを見える化し、仕事の整理をすることが重要である。サービスの質がどう向上し、提供できるか検討するため、現在、DXプロジェクトの組織を立ち上げ進めている。アナログファーストからデジタルファーストの社会へ展開するには、今あることの改善なくして、デジタル社会のビジョンはない。

質問 兵庫県が新設した不妊治療ペア検査助成事業は、不妊治療の入り口となる検査に、ペアでの受診を促す事業である。男性の検査が進まないという課題に対し、この事業は有効であると考えるが、本市での実施予定は。

答弁 現在、本市における必要度を図っている。市内医療機関での実情も調査しながら方向性を検討する。

(市当局)

高坂 純子 議員 (市民クラブ)



神戸電鉄粟生線の今後は!?

答弁 まちづくりと一体となった利用促進が必要不可欠

質問 コロナ禍の影響を受け利用客の大幅な減少や減収で鉄道を取り巻く状況は厳しくなる。自治体が鉄道を存続するために、危機感を持つ一方で、市民の関心がだんだん薄れていくことも危惧する。今後の方向性について問う。

答弁 市として神戸電鉄粟生線を存続させるため、まちづくりと一体となった乗客確保政策を着実に進めている。沿線首長による経営会議の設置を2年前から提案し続け、会長市である三木市からの回答を待っているところである。

答弁 神戸電鉄が企業として阪急阪神HDを含めてどのような主体的な経営をするかが大切。粟生線だけの問題ではない。

(市当局)

不登校児童・生徒の問題について

質問 昨年4月から今年1月までに30日以上欠席した「不登校児童生徒」は小学校12名、中学校53名だが、不登校傾向にある児童生徒の現状は。

(市当局)

答弁 令和3年3月時点で116名。「要観察児童生徒」として個別対応し教育委員会とも情報共有して取り組んでいる。

質問 市内でも不登校児童生徒の親の会がある。現場の声を聴くためにも協議会の設置はできないか。スクールカウンセラーの増員が必要と考える。県へ予算要求していく。

(教育長)

その他の質問事項
・第430回市議会定例会市長あいさつについて

前田 光教 議員 (市民クラブ)



コロナ禍でイベント事業の棚卸

答弁 イベント事業は市民力の結集の成果を問う!

質問 コロナ禍から、ポストコロナ社会を見据え、イベント系の事業の今後について方針を問う。

民間のことと放置するのではなく、空き店舗をださないと意識のもと、市民、行政ともに積極的にまちづくりに参加していく。

答弁 コロナ禍でイベント系事業が自粛を余儀なくされる期間を、無駄に過ごすのではなく、狙いとする本質と市民の皆様にとっての効果を問い直す絶好の機会としてとらえ、検証と見直しを行っていく。11月以降のイベントは準備をし、ワクチン接種率の成果を問い、市民の意見を聞きながら進めていく。

(市当局・市長)

質問 シビックゾーン付近の空き店舗対策について問う。

工場誘致で雇用の確保、空き店舗地の有効活用、社員寮で人口増、よって増収増を図り小野市の福祉行政に活用していく。(市当局・市長)

答弁 空き店舗となっていたところを、ひょうご小野産業団地への進出企業の社員寮用地として活用する等、

(市当局)

河島 泉 議員 (紡ぐ未来)



コロナ禍の高齢者の活動量は

答弁 現時点で活動量低下の影響は表面化していない

質問 コロナ禍での後期高齢者のフレイル予防対策の具体的支援内容について問う。

答弁 対象者以外の方への活用は考えていない。(市当局)

パートナーシップ制度導入の取組について

質問 性的マイノリティへの理解とパートナーシップ制度導入の取組についての考えは。

答弁 国保データベースシステムを活用し、医療レセプト、基本健康診査、介護サービスの利用状況から対象者を4つのカテゴリーより抽出し、きめ細かな支援を行う。また集团的支援として、いきいき100歳体操の31グループを対象に栄養講話、口腔ケア講話、健康講話等を行う。

(市当局)

質問 市内在住の65歳以上の方に配布している「認知症なんてこわくない①②③」テキストや、「おのらく楽体操」DVD等を有効活用する考えは。

答弁 地域特性等も踏まえ、実態を把握し現実に根差した議論をする必要がある。(市長)



みんなで楽しく♪

常任委員会審査報告

6月定例会の提出議案審査について、予算決算、総務文教、民生地域の各常任委員会を開催し、当局から細部にわたる説明を受け、慎重に審査しました。

≪予算決算常任委員会≫

6月28日開催

付託議案数：2件（議案第30号・34号）

審査結果：反対討論はなく、全会一致で可決すべきものと決定。

●主な審査内容

議案第30号について

- ・ふるさと納税に関して、目標達成のために市職員が市内企業を深く知ることによって新たな商品開発につなげる産業振興と、それらを広く周知するための情報発信力といった「見える成果」と「本質を貫く成果」の両面を併せ持つ取組であることを確認した。



予算決算常任委員会

≪総務文教常任委員会≫

6月28日開催

付託議案数：3件（議案第35号・36号・37号）

審査結果：反対討論はなく、全会一致で可決すべきものと決定。

●主な審査内容

議案第36号について

- ・コミセンおのの解体に伴うアスベスト除去については、環境被害や安全に関する重要なことであるため、事前に全議員に対して状況説明を行うなど情報共有があってもよかったのではないかと意見があった。



総務文教常任委員会

≪民生地域常任委員会≫

6月28日開催

付託議案数：2件（議案第31号・32号）

審査結果：反対討論はなく、全会一致で可決すべきものと決定。

●主な審査内容

議案第31号について

- ・福祉医療費助成に関する条例の一部改正では、市内5か所の訪問看護ステーションを中心に行われている訪問看護療養費等についても福祉医療費の助成対象とするなど、時代に即して適宜改正が行われていることを確認した。



民生地域常任委員会

藤原 章 議員（日本共産党）



QRコード



学校給食のパンは安全な国産小麦を

答弁 兵庫県産小麦の学校給食採用支援を注視する

新型コロナウイルス対策について

質問 新型コロナウイルスの医療で北播磨総合医療センターの役割を問う。

答弁 地域の中核病院としてコロナ以外の高度医療を担当してきたが、感染拡大でやむなく一定程度受け入れられている。（市長）

質問 「子育て世帯生活支援特別給付金」の対象を就学援助受給世帯まで拡大して支給する考えはないか問う。

答弁 要件の緩和や増額等の補足的な給付は行わない。また、「生活困窮者自立支援金」も同様の考えである。（市当局）

質問 市内事業者への新型コロナウイルスの影響と支援策を問う。

答弁 小野商工会議所の調査では令和2年中、売り上げ増加は8.5%、減少が約9割だった。融資は「新型

コロナウイルス感染症対応資金」がある。市の支援は国の動向を見て考える。（市当局）

福祉給付制度適正化条例と生活保護について

質問 生活保護の適切な活用のためには国の運用改善と、正しい理解を広め、偏見をなくすることが重要だが、考えを問う。

答弁 国はこの間、就労、車両、保険、転居指導、扶養調査などの見直しがあった。市も経済的・心理的負担軽減に配慮している。（市当局）

質問 福祉給付制度適正化条例は受給者の人権と尊厳を脅かす恐れがある。市民の通報は生活困窮者に限定するよう改正すべきだ。

答弁 人権や尊厳を脅かすとは思わない。改正は考えない。（市長）

議会と市民との懇話会

一般質問のある第2日、第3日の休憩中に傍聴に来られた方が、議会での一般質問や市政全般について質問することができ、市当局や議員がその場で答える懇話会を実施しています。

傍聴に来られた方のみが体験できる時間ですので、ご覧になりたい方、参加したい方は是非とも議場にお越しください。

懇話会での意見

- 議会の体制について
- 神戸電鉄について
- おのりんカーについて

など



各議員の顔写真の下のQRコードをスマートフォンなどで読み取ると、その議員の一般質問などの動画をご覧いただけます。

Q. 市議会ってどんなことしてるの？



A. 市議会は、市民を代表する議員で構成され、市の意思を最終的に決定します。市長をはじめとする行政運営を行う「執行機関」が適切な行政運営を行っているのか監視するのが「議決機関」である市議会の役割です。本会議では、主に条例の制定・改廃や予算等の議案の審議を行い、議決されて初めて、市の施策が実施されます。

議員が議案を提出することもできます。6月定例会では議員提出議案2議案が可決されました。

議員提出議案第3号 小野市議会議員の報酬等の特例に関する条例の一部を改正する条例の制定について

地方自治法等に違反し出席停止の懲罰を受けた場合、議員としての職責を果たせないことから、その間の議員報酬を支払わない特例を設けようとするもの。また、産前6週産後8週を経過するまでの期間は議員報酬等を減額する基礎となる期間から除外することを明記するもの。

議員提出議案第4号 小野市議会会議規則の一部を改正する規則の制定について

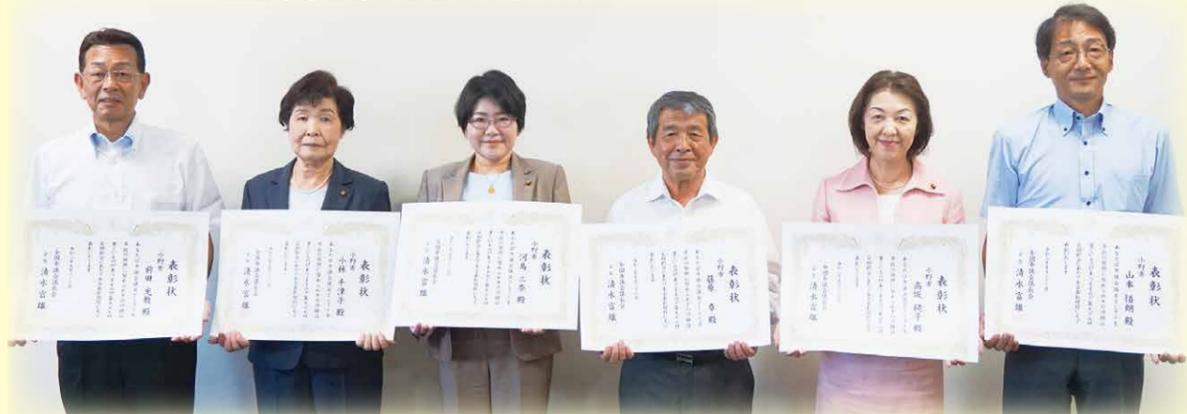
本会議等の欠席事由を、公務、疾病、介護、看護等と具体的に示すとともに請願書の提出について押印は必ずしも必要ないと規定するもの。

《基本的な議案審議の流れ》



全国市議会議長会表彰

第97回全国市議会議長会総会において、在職10年の議員6名が全国市議会議長会会長表彰を受けました。



前田光教議員 小林千津子議員 河島三奈副議長 藤原章議員 高坂純子議員 山本悟朗議員

議員研修報告

令和3年7月5日(月)

議員による議員のための研修会

初企画!!

第一弾 防災を学ぶ!!

防災士資格を有する議員が女性議員4名になった。これを機に、会派を超え防災の研修を行うことで防災意識の向上を図ろうとするものである。また、議員自ら企画から進行まで全て運営する事で、“議員力アップ!”小野市議会の広報的役割も担っていききたい。



①防災マップについて

- ・小野市防災センター作成のDVDと防災マップを照らし合わせながら、地震や豪雨等によって違う小野市内の危険箇所等の確認
- ・令和3年5月20日から「警戒レベル4」は避難指示! 避難する!



②マイ・タイムラインの作成

- ・議員自身が住んでいる地域での避難行動の予測等を書き込みながら、近隣の危険箇所、避難所等の確認

※マイ・タイムライン
＝一人ひとりの防災行動計画

③ローリングストックについて

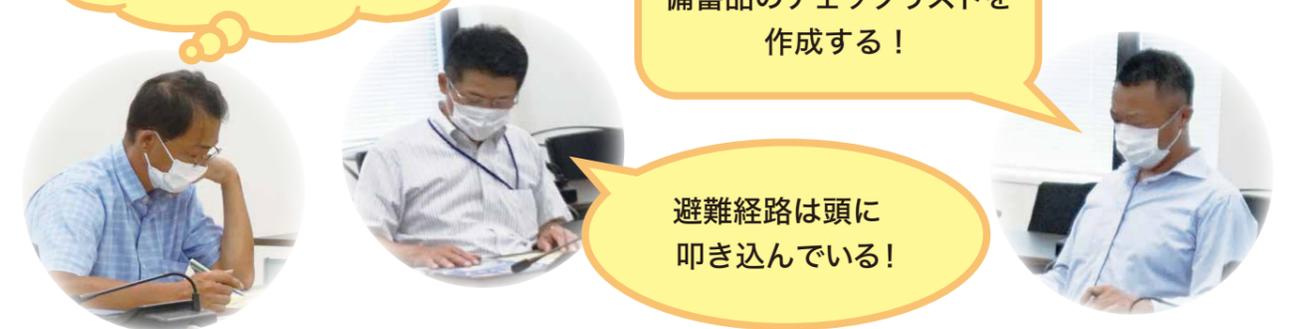
- ・「防災用非常用食品」にこだわらず、日頃から好きなお菓子やカップ麺などの身近なものを常に一定量備蓄しておく

頼れる人を作っておくのも大事!

情報を整理しながら
最後は自己責任

備蓄品のチェックリストを作成する!

避難経路は頭に叩き込んでいる!



偶然にも開催日が静岡県熱海市で発生した土砂災害の翌日という事もあり、いつも以上に防災マップの危険箇所や被害想定等詳細に取り組んだ研修となった。特に、新たな避難情報の確認から、高齢者と同居している場合は警戒レベル3で一緒に避難して介助するなど、具体的な対応を話し合うなど、議員一人ひとりの意識レベルの向上となった。

議会を傍聴しませんか

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、傍聴をお断りする場合がありますのでご了承ください。

☆9月定例会日程☆

- 8月30日(月) 午前10時～
本会議(第1日) 議案説明
- 9月16日(木) 午前10時～
本会議(第2日) 一般質問実施
- 9月17日(金) 午前10時～
本会議(第3日) 一般質問実施
- 9月30日(木) 午後1時30分～
本会議(第4日) 議案の採決など

- ★一般質問では、市長から提出された議案や、市政全般について議員が質問し、市長や部長等が答弁します。
- ★9月定例会で一般質問する項目・内容については、9月中旬に市議会ホームページに掲載します。



傍聴席から見た議場

小野市議会では、本会議を一般公開しています。当日受付で、住所・氏名を記入するだけで、どなたでも議会の傍聴ができます。

市役所6階 議会事務局までお越しください。

議会と市民との懇話会

一般質問が行われる9月16日(木)と17日(金)の本会議休憩中に、傍聴者から質問していただく機会を設けます。議会傍聴を終えて疑問に思われた点など、ぜひ、ご意見をお聞かせください。

「手話通訳」・「要約筆記」を利用できます

本会議を傍聴される際に「手話通訳」・「要約筆記」を利用することができます。希望日の8日前までに議会事務局にお申し込みください。(費用負担はありません)



傍聴に行けなくても YouTubeで議会中継



マチイロ

アプリをダウンロードするとスマホに広報誌が届きます!



「託児コーナー」を開設

一般質問が行われる9月16日(木)、17日(金)は、「託児コーナー」を開設します。傍聴の際には、1歳から就学前のお子さまをお預かりします。9月8日(水)までに議会事務局にお申し込みください。(費用負担はありません)



議会傍聴者数

6月定例会43名
(令和3年度累計43名)

＜お申し込み先＞ 議会事務局 TEL.63-1006(直通) FAX.63-4108
E-mail:gikai@city.ono.hyogo.jp (市議会だよりへのご意見もこちらまで)

あとがき

今年度は私達の議員活動も折り返しの年となります。改めて一人一人の振り返りと今後に向けての思いを皆様にお伝えすべく、今回の特集と致しました。

また今回初めて、議員による議員のための研修会として、防災士の資格を持った女性議員4名が講師となり、議員自身の知識の向上とそれを広く伝えるためのスキルアップを目指して防災研修を行いました。初めての試みではありましたが、質問、回答も活発に交わされ充実した研修会となりました。

今後も「開かれた市議会」に向けて研鑽を積み、わかりやすく身近な議会だよりを目指してまいります。市民の皆様方もぜひ市議会定例会の傍聴にお越しいただき、お気付きの点等ございましたらお聞かせください。

お待ちしております。

(市議会報編集委員)

河島 泉